

地域連携推進会議議事録

1、開催日時：2026年2月26日 9:30～12:45

2、場 所：法人事務局 会議室

障がい者支援施設サニーサイド

共同生活援助事業所サニーサイド

3、出席者：

地域住民代表者 : A様

知見を有する者 : B様

知見を有する者 : C様

行政関係者 : D様

ご家族代表 : E様

ご利用者代表 : F様

ご利用者代表 : G様

<当事業所職員>

衛藤 博 : 社会福祉法人友朋会 理事長

衛藤 真知子 : 共同生活生活援助事業所サニーサイド 施設長

宮崎 嗣大 : 障がい者支援施設サニーサイド 施設長

村上 美保 : 障がい者支援施設サニーサイド 課長・サービス管理責任者

中山 綱将 : 障がい者支援施設サニーサイド 係長

永田 精一郎 : 共同生活援助事業所サニーサイド/サニーサイドワークセンター
係長・サービス管理責任者

小北 京佑 : 共同生活援助事業所サニーサイド 係長

河野 敏道 : 社会福祉法人友朋会 事務課長

4、日程：

1. 理事長挨拶

2. 出席者紹介

3. 資料説明

(1) 地域連携推進会議の目的・内容・効果

(2) 法人概要説明

(3) 事業概要説明

(4) 利用者の権利擁護について

(5) 地域貢献・交流事業について

4. 施設見学

障がい者支援施設サニーサイド

共同生活援助事業所サニーサイド (のぼら、さくら、かえで)

5. 質疑応答

<議事>

1. 理事長挨拶

理事長の衛藤より、本会議の趣旨及び出席への感謝について挨拶が行われる。

2. 出席者紹介

河野より、出席者のご紹介ならびに都合によりご家族代表の H 様が欠席されることが報告される。

3. 資料説明

(1) 地域連携推進会議の目的・内容・効果

宮崎より、以下の4点の目的が資料に沿って挙げられた。①利用者との関係づくり、②地域の人への理解の促進、③権利擁護と外部の目、④サービスの透明性・質の確保に繋がりを目的とし、「地域と共に質を高める」ことが説明された。

(2) 法人概要説明

引き続き、宮崎より経営理念の「健やかでその人らしい生活の創造」の下、4つの運営方針が説明された。法人概要では法人のあゆみが説明され、事業収益の推移や新卒採用における人への投資について人件費の状況を交え、資料に沿って説明された。

BCP への取組について河野より、自然災害及び感染症対応の策定が挙げられた。ポイントとして、業務縮小基準による出勤率に応じた優先順位とサービス提供内容が挙げられた。平時の対応として、研修と訓練の様子や医療機関との協力体制について資料に沿って説明された。

(3) 事業概要説明

障がい者支援施設サニーサイド及び共同生活援助事業所サニーサイドの概要について中山、小北より資料に沿って以下の通り、説明された。

障がい者支援施設サニーサイドでは、基本情報として利用者数 41 名、平均年齢 50 歳であり、障害支援区分 6 に該当する利用者が 88%を占めていることが報告された。サービスの提供においては特性や身体状況に応じた 5 班制での支援が挙げられ、活動内容については広報誌を基に紹介された。意思決定支援においては会議の開催や自治会等の開催、専門性の強化では専門家による研修の実施が挙げられた。

共同生活援助事業所サニーサイドでは、3棟のグループホームが運営され、定員 17 名に対し 10 名の入居者、平均年齢が 40 歳であることが報告された。支援体制として定期的な外出による地域社会との接点や地域イベントへの参加が挙げられた。3月には 12月に竣工したサニーサイドグラウンドでのグラウンドゴルフ大会の企画があることも報告された。

(4) 利用者の権利擁護について

権利擁護に関して、村上より虐待防止・身体拘束適正化に向けた取り組み及び苦情解決への取り組みについて資料に沿って説明された。虐待防止については委員会の開催ならびに組織体制が明示された。職員へのチェックリストによる確認、研修体制、ストレスチェ

ック等について報告された。事故事案の検証も行われ、今年度虐待にあたる事案は無かったことも併せて説明された。身体拘束について身体拘束実施の3原則に則った実施が挙げられた。苦情解決については苦情解決マニュアルに沿った実施が報告された。

事故報告及びヒヤリハットの分析について、永田より資料に沿って説明された。事故等の報告については情報共有アプリによって職員間で共有されていることが説明された。事故の分析においては、利用者の集まる共有空間での発生が顕著であり、事故分類における転倒や破損行為の要因については季節的要因が挙げられ、環境の調整による対応策が挙げられた。

(5) 地域貢献・交流事業について

地域貢献・交流事業については、河野より「一人住まい高齢者訪問事業」、「生計困難者レスキュー事業」、「アール・ブリュット推進事業」の3つの取組を目的及び実施概要に関して資料に沿って説明された。

4. 施設見学

①障がい者支援施設サニーサイド

②共同生活援助事業所サニーサイド（のぼら、さくら、かえで）

※グループホームかえでに関しては入居状況により画像にて紹介している。

5. 推進委員からの質問及びご意見

(質問)

①利用者の方へサニーサイドの暮らしはどうですか。

A. カラオケが楽しいです。

②利用者の方へ施設の食事はいかがですか。

A. お肉料理が好き、唐揚げが好きです。

③利用者の方へお部屋は過ごしやすいですか

A. 好きなテレビを観ることが楽しい、絵を描くことが楽しい。

(推進委員からご意見)

①説明資料の災害対策について、最近では豪雨による水害が報告されているため水害に関する訓練への取組を推奨します。

A. 施設は高台にあり、水害被害は想定していませんが、施設西側の斜面は土砂災害警戒区域となっているため職員及び利用者には大雨の際に近づかないよう注意喚起を図っています。ご助言頂いた内容については検討していきます。

②サニーサイドの絵画活動については市の方でも把握しており、現在、市長公室の廊下に大阪・関西万博で展示された絵画を展示しています。

A. 今後も絵画を通じた障害福祉の発信を推進していきたいと考えています。

③ご紹介として他事業所の地域連携推進会議では区の夏祭りに利用者の方が参加される

例が挙げられていました。

- A. コロナ以前は地域の小学生と交流を定期的に行っていました。終息が確認されて以降は少しずつ交流が再開されており、当法人のギャラリーの展示を見学に来られています。夏祭りについては地域では現在行われていません。昨今、夏場の高温により、当施設でも秋まつりによる交流を実施しています。

〔議事録作成者〕

障がい者支援施設サニーサイド
施設長 宮崎 嗣大

報告写真

